

■前回（第2回）協議会における候補エリア（案）に対する主な意見

- ①漁場利用を阻害する可能性が高い
 - ✓ 漁場利用と重なっており、操業や漁船の航行に支障が大きい
- ②事業性を鑑みた場合に規模が小さすぎる
 - ✓ 事業性を考慮すると300～500MW以上の規模が必要（21～35km²程度）
- ③候補エリア⇒導入可能性エリアを無理に選定する必要性が低い
 - ✓ 候補エリア全域を対象にして事業実現性を考えればよいのではないか

■候補エリア選定の考え方

海域利用者（漁業者）へのヒアリング方針について変更

- これまでは、高度に漁場を利用されている海域についてヒアリング
⇒重ね合わせを行い、比較的利用頻度の低い海域を候補エリア（案）として設定

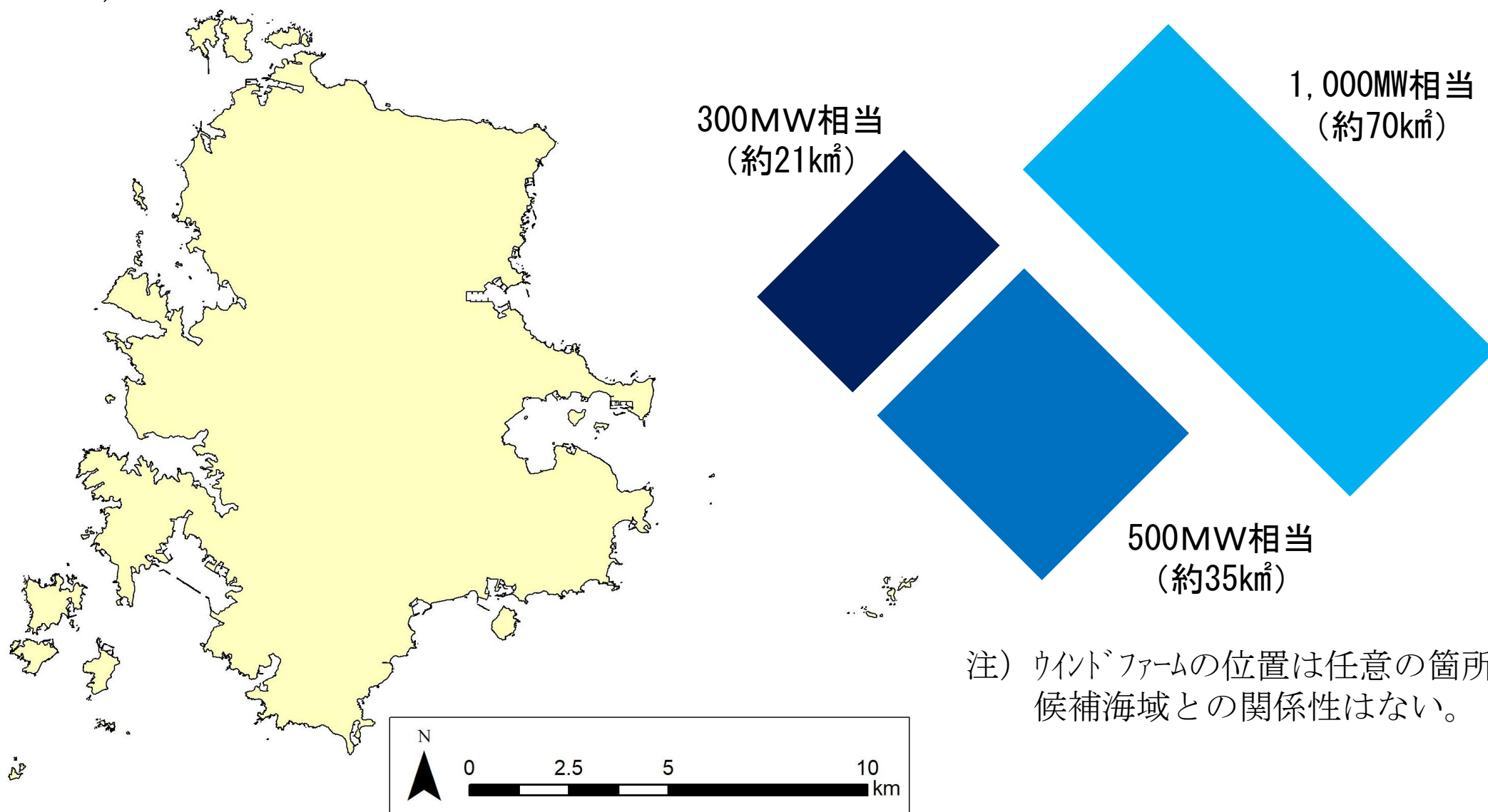
変更

- 風車が建設された際に漁業操業に重大な影響を及ぼす海域についてヒアリング
⇒それ以外の範囲については、条件（漁業協調等）により風車建設の可能性のある範囲としてエリアの拡大を検討したい

- 12月は漁業繁忙期につきヒアリング実施は困難と判断
- 次回（第4回）協議会までにヒアリングを行い、候補エリア（案）を選定していく
- 導入可能性エリアの抽出は無理に行わない

■事業性を考慮した候補エリア（案）の規模

- 事業性を考慮して、300MW、500MW、1,000MW規模のウインドファームを想定。
- 卓越風向（当該区域において最も頻度の多い風向）は北東方向、風車1基当たり9.5MW（ハブ高(D)：174m）風車間隔は卓越風向と平行方向に3D（522m）、垂直方向に10D（1,740m）



注) ウインドファームの位置は任意の箇所であり、候補海域との関係性はない。

候補エリア選定に向けた方針の変更について

■ゾーニング実証事業から事業実施までの流れ（イメージ）

- 現在（ゾーニング実施）から施設の建設（着工）まで10年程度の期間を要する。
- 再エネ海域利用法において促進海域に指定されたのち、公募により事業者が選定される
⇒具体的な漁業協調、地域貢献等の協議はこれ以降に本格化。

